やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」（青森）発行

誌　　名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	34 / 2014 / 15　(再編集版)
タイトル	情報　弘前市周辺のハグロトンボ2013
著　者　名	編集部

自然を見つめる やぶなべ会（青森）

情　報

弘前市 周辺
の
ハグロトンボ
2013

ハグロトンボ

調査方法見直し検討

HEP21 昨年の目撃情報512件

ひろさき環境パートナーシップ21（HEP21）は11日、弘前市総合学習センターで自然環境学習会を開いた。HEP21自然環境グループの村田孝嗣さんが市民らから寄せられた2013年のハグロトンボの目撃情報が、12年に続き市街地で多いことなどを報告。「目撃情報だけを集めてきて8年目。どういう形で続けるか検討したい」と調査方法を見直す考えを示した。

ハグロトンボは生活排水の流入などによる河川の水質汚染で一時は見られなくなった。だが数年前から再び確認され、同グループが06年から目撃情報の収集を開始。12年は131件が寄せられていた。

13年は市内や市周辺部以外も含めて512件で、昨年と同様に市街地に集中。弘前公園内や青山、宮園を流れる加藤川沿いの住宅地などのほか、新たに石川地区の平川沿い、8月中旬以降に土手町の土淵川でまとまった数の目撃があった。他方で同市の平川の支流である腰巻川では目撃例が減っている。

周辺の調査などはしていないが、村田さんは「まとまって見られた場所の近くに産卵されている環境があるだろう」と推定。「生息場所が増えているのを確認するためだけに目撃情報を集めてきたが、調査をどう続けるか相談して進める」と述べた。（石橋治佳）

市民らから寄せられたハグロトンボの目撃情報について報告した村田さん（右）

陸奥新報　2014年1月12日付

ハグロトンボは県内各地で復活しつつあるが、弘前市周辺の状況について、「ひろさき環境パートナーシップ21 」が中心になって、観察情報を広く市民に呼びかけている。
2006年から情報収集を開始、2012年の目撃件数は131件、2013年は市周辺部以外も含めて512件。傾向として市街地に集中しているとしている。
今後生態面ではどうなのか、調査方法を検討中としている。